

2024 年第 30 週の報告です。

**新型コロナウイルス感染症(COVID-19)**が 22 週以降増加を続けています。今週は定点当り報告数は 15.18 になりました。**手足口病**は 27 週から少しずつ減少していますが、全国・京都府全体での警報レベルは続いています。府内の保健所別では、京都市下京区が 1.0 と警報レベルを下回りましたが、中丹東は新たに警報レベルになりました。

**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は京都市右京区の警報レベルは今週も継続、**咽頭結膜熱**と**水痘**は京都府全域で警報レベルを下回りました。

全数報告対象の感染症は、**結核**が 8 件、**腸管出血性大腸菌感染症**が 5 件、**レジオネラ症**が 2 件報告されました。**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**が 2 件、**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**と**侵襲性肺炎球菌感染症**が各 1 件、**梅毒**が 5 件報告されました。また、基幹定点から**細菌性髄膜炎**が 1 件、**マイコプラズマ肺炎**が 9 件報告されました。眼科定点から**流行性角結膜炎**が 2 件報告されました。

**新型コロナウイルス感染症(COVID-19)**は年齢別では、全国では 40 - 50 代の感染が多い一方、京都府では 70 歳以上の方の感染が目立ちます。お盆を迎えるにあたり、「3つの密」の回避、手指消毒、効果的な換気、そしてマスクの適切な着用など感染症対策を続けてください。同時に熱中症対策も必要です。症状によっては COVID-19 と混同される例もあります。感染対策の傍ら、冷房の適正利用や屋外ではマスクを外すなど、柔軟に対応しましょう。

また、**マイコプラズマ肺炎**も京都府内及び全国で増えています。マイコプラズマ・ニューモニエという細菌の一種が感染することで発症しますが、一般的な細菌と構造が異なり有効な抗菌薬に限られます。症状は発熱や長引く咳で、主に飛沫感染で広がります。手洗い・うがい・咳エチケット等で予防しましょう。